

2番 佐藤安美でございます。先の岩泉町議会議員選挙におきまして、初当選させていただきました。私は、牛と山を生業としておりますが、その分野に対する町民の期待を受けたものと認識しています。まだ、その声が熱く響いている状態ではありますが、文字通り初めての登壇となります。

これより質問通告に基づきまして一般質問を行います。

現在、岩泉町では町内の2名と葛巻町の1名の開業獣医師が家畜診療を行っている状況です。ただ、その範囲は本町と田野畑村を管轄する広範囲の業務となっております。

昭和50年代の農協合併を機に、獣医師は農業共済組合に集約し、家畜診療所が開設されました。当初は、5名の獣医師が駐在し、各地区の診療を行っていました。

農業共済組合で運営する家畜診療所は、定年により獣医師が退職したわけですが、それぞれ開業獣医師として診療を続けたことから、大きな混乱、不便もなく経過してきました。しかし、平成30年に1名の廃業があり、本年1月には農業共済組合でも当管内の診療が休診となり、いよいよ獣医師不足が深刻な問題となっております。

畜産・酪農家の状況は高齢化や担い手不足により減少傾向に有ることは事実であります。その中でも後継者が就農し、頑張っている畜産・酪農家もあります。家畜が病気にかかった時、あるいは難産の時に獣医師を依頼できず大切な家畜を死亡させる事態になれば大きな損失につながり、死活問題になると共に一次産業の衰退を招くことが懸念されます。

現在、家畜診療に携わっている開業獣医師も高齢により、いつ廃業してもおかしくない状況にあります。

早急に獣医師確保に向けた取り組みが必要と考えます。いつまでも他力本願の姿勢でいいのでしょうか。農業共済組合に頼っているのには限界がきているのではないのでしょうか。

本町の歴史からも、将来計画からも一次産業の根幹をなす畜産酪農業の振興のために町自らが獣医師を抱える決意をする時が迫っています。実際に家畜死亡などの被害が顕在化してからでは手遅れであるという認識を、待ったなしの状況にあるという認識を持っていただきたい。

岩泉町の基幹産業である畜産酪農業を継承できるかどうかの瀬戸際に来ています。それほど、獣医師確保は重要な課題です。

町長の所見をお伺いいたします。